



第4章

海外留学

- 1 海外留学の意向
- 2 海外留学の目的と希望時期・期間

Benesse教育研究開発センター 研究員 吉本 真代

1 海外留学の意向

在学中に「海外留学をしたい」と思っている学生は全体の約4割。しかしながら、4年生の11月の段階で実際に留学をしている学生は4.9%である。語学力が身についていると感じているか否かによって留学に対する意識は大きく異なる。

経済・社会のグローバル化が加速する中で、世界を舞台に活躍できる人材の育成が急務となっている。国においては海外留学を促進する政策が進められ、大学においても国際標準に合わせたアカデミックカレンダーの検討を始めるところが出てくるなど、学生の国際間の移動をしやすくし、相互の交流を促進する方向に進もうとしている。こうした中、学生の意識はどのようなのだろうか。2012年調査では新たに海外留学についてたずねた。

4割が海外留学に肯定的

在学中（大学院も含む）に「海外留学をしたい」と思っている学生の割合（「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%、以下同）は全体の38.0%、「すでに海外留学をした」（2.9%）と合わせると、4割が留学を肯定的にとらえている（図4-1-1）。

学年別には、1年生で最も高く、44.1%が留学をしたいと答えている。一方、4年生の「すでに海外留学をした」の値に着目してみると、本調査の実施時期の11月初旬において、在学中の海外留学経験者は4.9%にすぎない。この後に留学をする学生もいるとは思いますが、留学意向者の割合からすると少ない。留学したいと思っても実行に移すのはたやすくはないことを表していると言えらる。

語学力によって意識に大きな違い

本調査では、留学を阻害する要因について

はたずねていないが、他の調査*¹によると、留学経験者、留学断念者とも「費用面」「語学力」が阻害要因の上位に挙げられている。

そこで、留学の意識に語学力の与える影響をみるために、本調査で、大学生活を通じて「外国語で読み、書く」「外国語で聞き、話す」力がどの程度身についたと思うかをたずねた結果と、留学意向をクロスしてみた結果が図4-1-2である。「読み、書く」「聞き、話す」のいずれにおいても、身についたと感じている群（「かなり身についた」「ある程度身についた」と回答した人）は留学意向が5割を超えるが、身につけていないと感じている群（「あまり身につけていない」「全く身につけていない」と回答した人）では3割程度である。語学力に対する認識によって留学の意向に顕著な違いがみられる。

語学教育の充実は、大学だけの問題ではないが、本調査では、大学において、外国語は上の学年になるほど「身についた」と感じている比率が低いという結果が出ている。具体的には「外国語で聞き、話す」については、「身についた」と感じている比率は、1年生42.7%に対し4年生が27.0%である（巻末の基礎集計表を参照）。

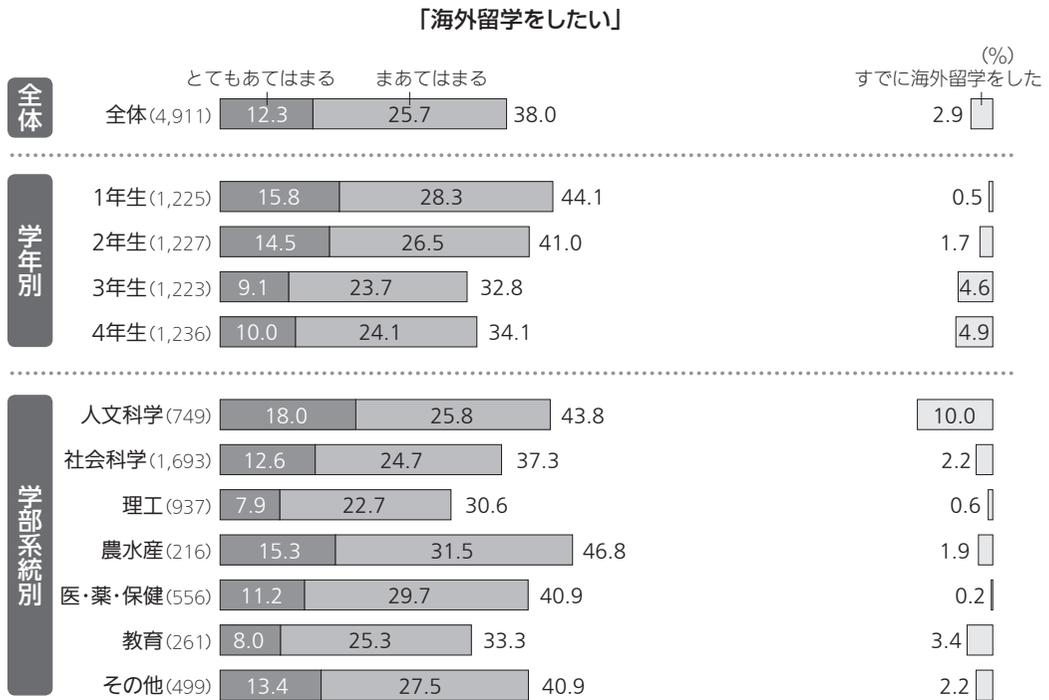
留学への抵抗感を減らす意味でも、留学意向があっても語学力の不足や不安により、留学を躊躇している学生を後押しするためにも、学生が4年間を通して、語学を学びやすい環境を整えることが留学を促進する鍵となるのではないだろうか。

* 1 経済産業省 2009『留学生・海外体験者の国外における能力開発を中心とした労働・経済政策に関する調査研究』pp.47-50.



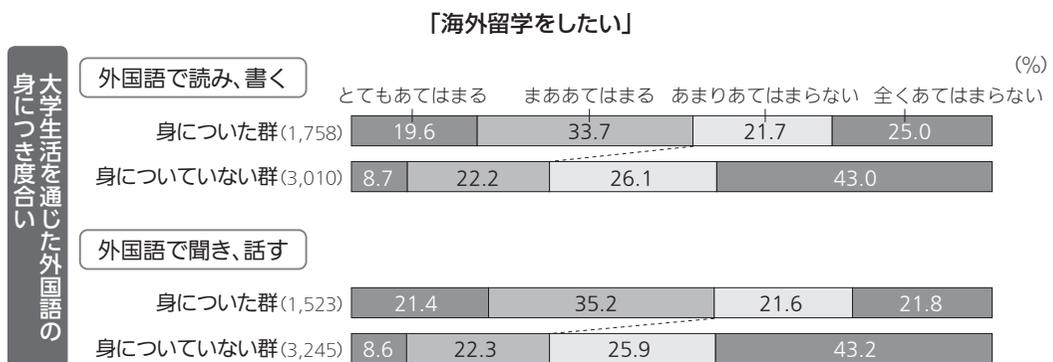
あなたの在学中（大学・大学院）の海外留学の意向について、あてはまるもの1つをお選びください。
 在学中にすでに留学をした方は「すでに海外留学をした」を選択してください。

図4-1-1 在学中の海外留学の意向（全体・学年別・学部系統別）



注) 選択肢は「とてもあてはまる」「まああてはまる」「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」「すでに海外留学をした」の5つ。

図4-1-2 外国語の身につけ度合い×在学中の海外留学の意向



注1) 外国語の身につけ度合いは、「大学生活全体を通じてどの程度身についたと思いますか」に対する回答。「身についた群」は「かなり身についた」+「ある程度身についた」と回答した人、「身につけていない群」は「あまり身につけていない」+「全く身につけていない」と回答した人を表す。

注2) 「すでに海外留学をした」と回答した人は除外している。()内はサンプル数。

2 海外留学の目的と希望時期・期間

留学の目的は「語学力を身につけたい」が8割、「海外生活を体験してみたい」が7割で高く、「海外で単位・学位をとりたい」はごく少数。学生が希望する留学の期間は「1ヶ月程度まで」の短期間が4割である。留学の時期は「2年生」が36.5%で最多、次に「3年生」が多かった。

「海外留学をしたい」に「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答した人と「すでに海外留学をした」と回答した人の計2,009名に対し、その理由と、希望する留学の期間と時期についてたずねた。

留学の目的は、語学力の向上・海外生活を体験すること

留学をしたい(した)理由は、「語学力を身につけたいから」が80.8%で最も高く、次いで「海外生活を体験してみたいから」が71.7%であった(図4-1-3)。また、「就職に有利になるのではないかと思うから」は15.0%であった。これを本調査の進路希望先に関する質問で、「民間企業」(進路が決定または内定している人は除く)と回答している人に限って比率を算出し直すと19.9%になる。他方、「海外で単位・学位をとりたいから」は2.7%と少数であった。

1ヶ月までの短期を希望する学生が4割

海外留学の意向のある人と、すでに海外留学をした人に対し、希望する留学期間(留学経験者は実際の留学期間)をたずねた結果が図4-1-4である。「1ヶ月程度」が全体の24.9%で最も多く、「数週間」とすると1ヶ

月程度までを希望する学生が全体で39.0%と、4割を占めている。一方、1年を超える期間を希望しているのは、17%(「1年～2年以内」+「2年超」の%)であった。

留学時期は「2年生」が3分の1

希望する留学時期は、「2年生」が36.5%で最も多く、次いで「3年生」が27.2%である(図4-1-5)。

学年別にみると、本調査の実施時期が11月であったことも影響していると思われるが、1～3年生は当該学年の次の学年を希望している学生が多い。4年生については、後がないこともあり、「2年生」を選んでいる率が最も高い。4年間を振り返ると、「2年生」が最も適した時期だったと感じている学生が多いようだ。

なお、学部系統別には、どの学部系統も「2年生」が最も多いものの、「理工」「農水産」といった大学院進学を希望している学生の多い理系学部*¹については「大学院に入ってから」との回答も2割を超えている。

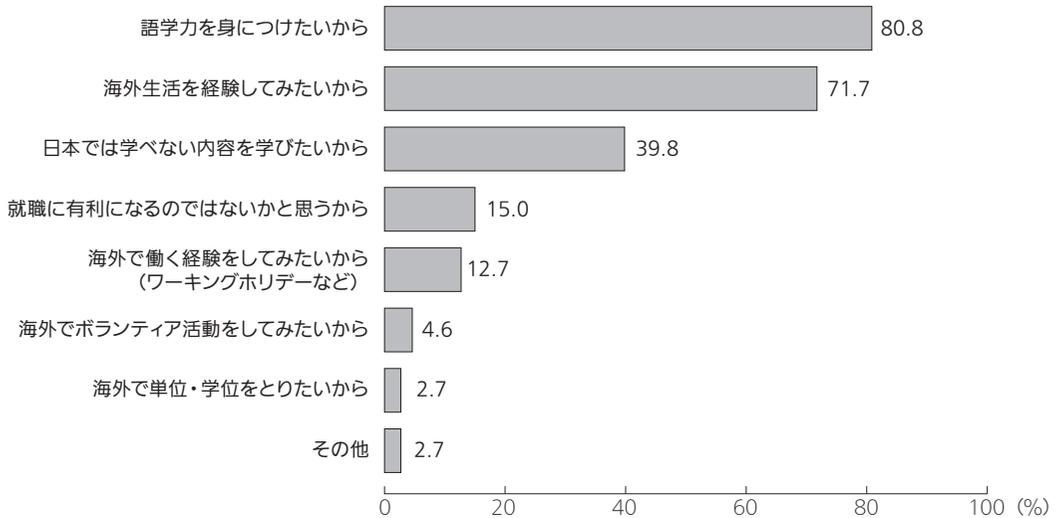
これらの結果からは、大学時代の中間の時期に、語学力の向上を目的とした、短期の海外経験をしてみたいと考えている学生が多い様子がうかがえる。

* 1 第5章「3 大学卒業後の決定(内定)した進路と希望する進路」(p.125、表5-1-2)を参照。



(「海外留学をしたい」に「とてもあてはまる」「まああてはまる」「すでに海外留学をした」と回答した人対象)
 あなたが留学したいと思う理由についてもっともあてはまるものを3つまで
 お選びください。
 「すでに海外留学をした」と回答の方は、留学した時を振り返ってお答えください。

図4-1-3 留学したい理由 (全体)

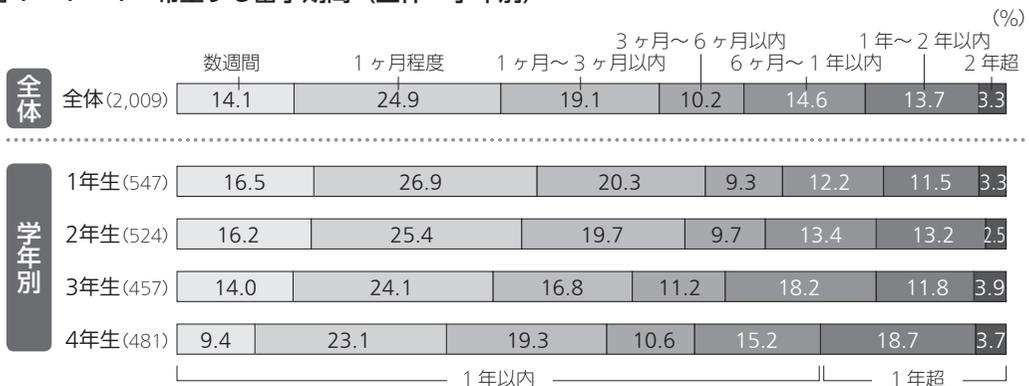


注) 対象は、「海外留学をしたい」に「とてもあてはまる」「まああてはまる」「すでに海外留学をした」と回答した2,009名。



(「海外留学をしたい」に「とてもあてはまる」「まああてはまる」「すでに海外留学をした」と回答した人対象)
 留学の期間として最も希望に近いもの1つをお選びください。
 「すでに海外留学をした」と回答の方は、実際に留学した期間をお答えください。

図4-1-4 希望する留学期間 (全体・学年別)

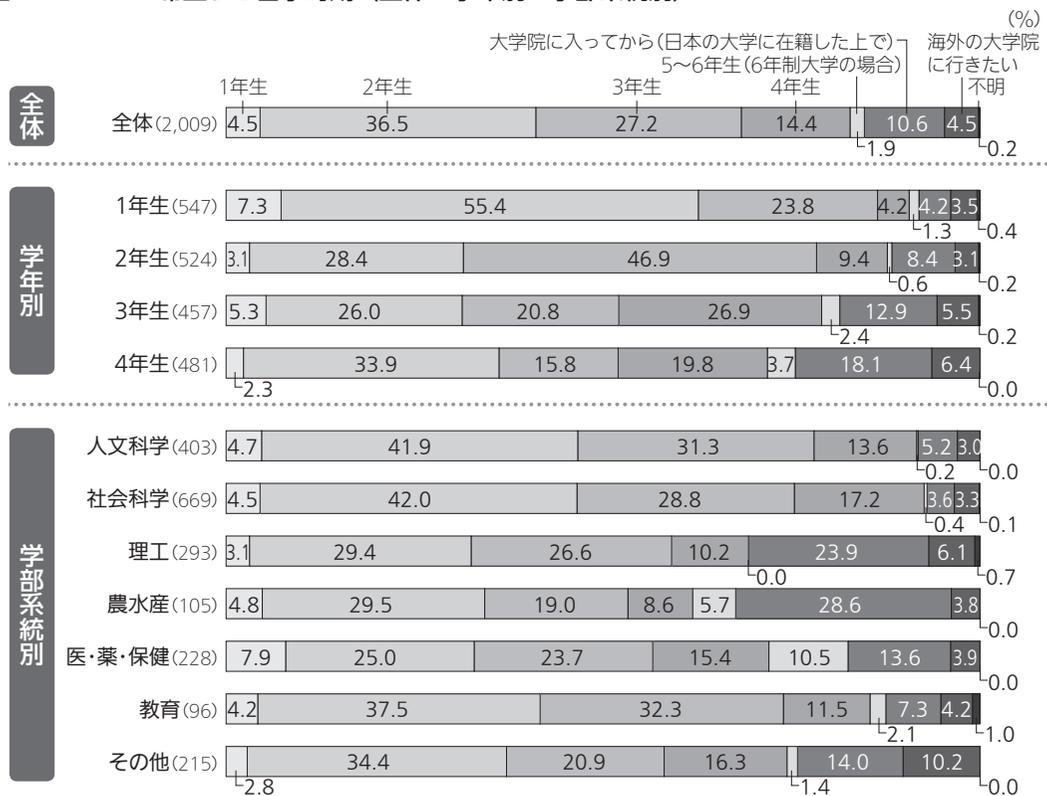


注) 対象は、「海外留学をしたい」に「とてもあてはまる」「まああてはまる」「すでに海外留学をした」と回答した2,009名。



(「海外留学をしたい」に「とてもあてはまる」「まああてはまる」「すでに海外留学をした」と回答した人対象)
留学する時期として、最も希望に近いもの1つをお選びください。
 「すでに海外留学をした」と回答の方は、実際に留学した期間をお答えください。

図4-1-5 希望する留学時期(全体・学年別・学部系統別)



注) 対象は、「海外留学をしたい」に「とてもあてはまる」「まああてはまる」「すでに海外留学をした」と回答した2,009名。